



dot. 大分県拠点施設 「dot. (ドット)」 に注目

大分県への就職定住を目的として2020年6月に福岡市大名にオープンした大分県拠点施設「dot.」へ、運営方針や利用状況を調査のため訪ねました。



「dot.」は、「**みつける つながる あつまる dot. で出会う、新たな自分**」をテーマに運営され、おしゃれなカフェも併設しています。

「dot.」は、若者に人気のあるアパレルショップの2階にあり、カフェと思えば来店した方々が、奥にあるコミュニティスペースを見て「ここは何だろう?」と興味を持つ方もいるそうです。



利用状況を尋ねると、オープンから174日間(営業日数)の総来客者は19,085人、1日平均

来客数は110人と私の想像以上。

私が説明を受けている間も、多くの若者が来店し、会議室を利用したり、勉強や調べ物をしたり、コーヒーを飲んでいたりと利用していました。

また、交流スペースは、大分県内の協力企業による情報発信等も数多く行われており、大分県人会の活動等にも使用されています。そもそもの目的であった大分県への就職については既に複数件実現しており、これからますますその数は増えていくものと期待しています。



そのためにも、「dot.」のコンセプトである「ラフなコミュニティ形成の場」がこれからも広がり、企業と求職者が気軽に出会える機会がさらに展開できることを大いに期待しています。

福岡市に行かれる際は、ぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

「dot.」
福岡市中央区大名1-15-35 大名247ビル2F

大分県でも ワクチン接種準備が 進められています



大分県でもスムーズなワクチン接種ができるよう対策チームを立ち上げ準備を進めていて、身近な「かかりつけ医」での個別接種を中心とする「練馬区モデル」の導入や、医療従事者が不足する市町村へ他の市町村から支援することなどを市町村と調整しています。

別府市でも、健康づくり推進課内に対策係を設置し、スムーズなワクチン接種を行うため、クーポン券の作成、送付などの準備や体制の確立の費用、全市民2回分の接種に必要な費用などをワクチン接種に要する経費6億6,200万円を国の補正予算成立後に専決処分するために補正予算を編成しました。

副反応に関わる情報の迅速な公開を望みます

一方、ワクチン接種による副反応(副作用)に関わる不安の声も聞こえてきます。ワクチンが完

成して時間があまり経過していないため、長期的な観察データが明らかになっていないことが要因として挙げられます。

とりわけ、妊娠されている方や基礎疾患のある方の中には、不安を持たれる方も多いのではないかと思います。

ワクチン接種では副反応により重篤な健康被害を被った場合に救済制度が設けられているものの、まず副反応に関わる情報の迅速な公開を行うことが重要であると考えます。

「ワクチン接種するかどうかは各個人の判断である」

衆院予算委員会において、田村憲久厚生労働相は「新型コロナウイルスのワクチン接種の有無を雇用や解雇の条件にすることは認められない」と答弁しています。

さらに、「ワクチンを接種するかどうかは各個人の判断であり、接種を義務づけるような形で、各職場で何らかの差別的行為があることは看過できない。」とも述べています。

多くの方が接する職場、例えば高齢者介護施設、保育所、幼稚園や学校などで、アレルギーや副反応の不安等の様々な理由で接種を希望しない方が差別・中傷されることが起きないためにも、この答弁は大事なことだと原田は考えています。